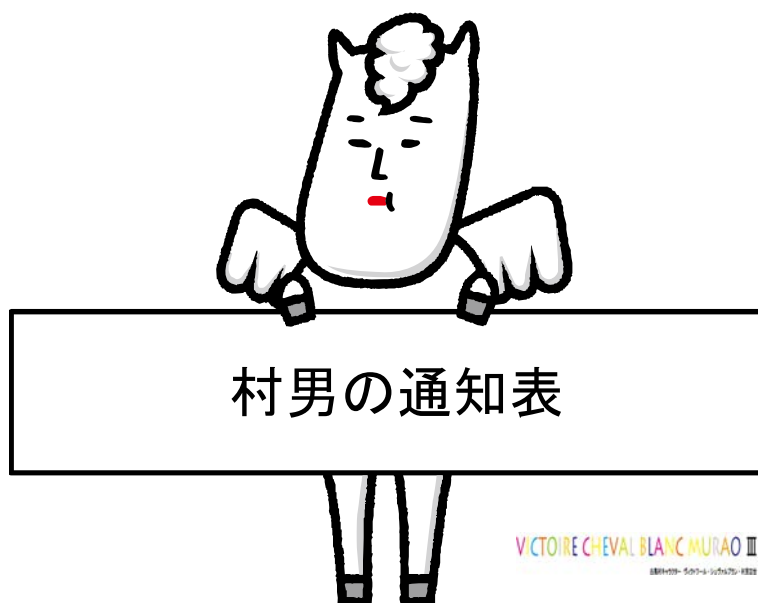


令和元年度(平成30年度実績)
白馬村第5次総合計画・総合戦略評価



令和元年10月

- 資料1 白馬村第5次総合計画・総合戦略評価について
- 資料2 白馬村第5次総合計画評価シート
- 資料3 白馬村総合戦略評価シート
- 資料4 外部評価に対する各課コメント
- 資料5 外部評価委員・事務局名簿



令和元年度(平成30年度実績)白馬村第5次総合計画・総合戦略評価について

1. 評価の目的

総合計画、総合戦略の重要業績評価指標(KPI)を内部(役場)と外部(住民)がPDCAサイクルに基づき、事業進捗状況を確認するため、毎年度評価を実施します。

○白馬村第5次総合計画 21ページ 3. 総合計画の推進より

開かれた村政と住民参画の推進を村政運営の基本とします。計画期間中は、事業の達成度や時代潮流の変化を確認するために、計画が進捗しているかの検証を行うための組織の設置、コーディネーター役の配置、PDCAサイクル仕組みの構築などを行い、随時点検と見直しを行います。

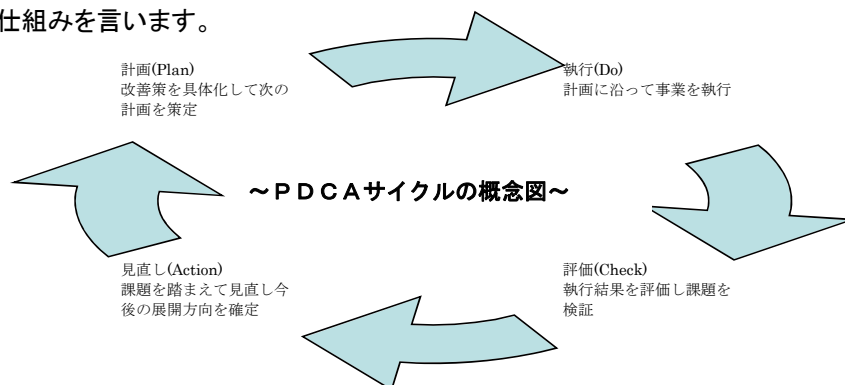
○白馬村総合戦略 31ページ (6)PDCAサイクルの確立

「まち・ひと・しごと創生」を実現するためには、PDCAサイクルを確立することが必要不可欠であり、重要業績評価指標(KPI)の設定により、効果の検証を行い、必要に応じ見直しを図ります。

○「PDCAサイクル」とは

事業の管理業務を円滑に進める手法の一つ。

Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する仕組みを言います。



白馬村第5次総合計画・総合戦略では、PDCAサイクル実現のために役場職員による内部評価、住民による外部評価を実施し、評価を公表します。

2. 評価スケジュール

期日	区分	備考
7月	担当課による内部評価	出納閉鎖期間終了後、評価コメント
8月5日	第1回総合計画等評価委員会	評価の進め方について
8月	外部評価委員による外部評価	5段階評定平均点及び評価コメント
9月19日	第2回総合計画等評価委員会	評価とりまとめ
9月30日	9月定例課長会議	庁内情報共有
10月	ホームページ等により公表	

3. 評価シートの見方

区分	内容
評価方法	総合計画、総合戦略の指標(KPI)に基づく内部評価、外部評価
内部評価	担当課による実績値報告と自己評価コメント
外部評価	委員による5段階評定の平均点及び評価コメント
	5 期待した成果
	4 概ね期待した成果
	3 半分程度の成果
	2 現時点では成果がみられない
	1 ほとんど進んでいない
* 内部・外部評価は、平成30年度実績に対する評価です。	

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
暮らし__安心してみんなが暮らせる村	多様性を尊重し、住民が主体的に共生・協働する村づくり	住民参画と協働	行政区の主体的な取り組みの支援	総務課	行政区加入率	52%	71%	70%		80%	加入率は微減と推計しています。要因としては外国人世帯の増加が考えられます。今後は調査の基礎となる分母数の精査を行います。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・支援員の効果は高いと思われるので、可能な限り増やす工夫が必要と考える。 ・行政区加入者率を上げるため各区役員の協力体制に期待する。 ・集落支援員の増員が必要である。 ・外国人世帯、季節のみの住人などあり、加入率の比較だけでは地区行政の主体的、継続的な取り組みを判断するところは難しいところがある考える。地域づくり事業補助会の主管の果の枠を超えた幅広い柔軟な活動を促していけるとよいと考える。 ・精査をしっかりと行ってほしい。 ・支援員数を増員することが成果ではない。
					地域づくり事業補助金活用地区	30	28	28		30	全地区が活用していただけるよう周知、事務支援します。			
			行政区の継続的な活動の支援	総務課・農政課・健康福祉課	集落支援員数	0	2	3	2	小規模集落支援が中心ですが、非常に助かっている旨の意見をいただきました。H30は事務、公共交通関係の支援員を増員しました。				
			住民活動・NPO等の支援	総務課		-	(後援)	(後援)	-	-	イベント開催等、方向性が合致するものについては後援しました。住民との協働によるまちづくりを推進するため白馬村ふるさと寄付金を活用した協働のまちづくり推進交付金を創設しました。			
		開かれた行政運営	行政情報の発信	総務課	白馬村行政HP PV数 (行政トップページPV数)	60,000 → 288,358	170,111	184,743	-	70,000 → 200,000	H30は公式ホームページをリニューアルし各課入力(CMS)対応としました。運用について研修を図り、情報発信に努めます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.7	・引き続きわかりやすい情報発信に努めてほしいと考える。 ・行政と区との交流にはユーテレ白馬の活用が必要である。 ・ユーテレ白馬加入数が少ないのではないか？ ・若者から、高齢者までスマホ・PCを使う時代、多くの情報の中から目とめていただけるよう、今後もよろしくお願ひしたい。
					行政FB いいね！数	-	1,086	1,360		1,000	引続き、情報発信に努めます。			
					ユーテレ白馬加入件数	1,906	2,025	2,047		2,100	加入件数は増加傾向です。指定管理者と協力し番組の魅力向上に努めます。			
				意見交換の場づくり	総務課		-	(30地区)	(27地区)	-	-			
		多様な人々の交流・共生	移住・定住の促進	総務課	人口	9,050	9,028	8,947		9,000	官民協力し、村の魅力向上に努め人口維持、増を図ります。行政としては地域おこし協力隊を活用し、おためし移住の実施や移住セミナーへの積極的参加等移住政策に取り組めます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.5	・外国人が中心とはいえ、社会増数が増えているのはいい傾向だと感じる。今後は日本人も含め増やせるような努力に期待する。 ・白馬村の良さをアピールし移住政策を強化する。 ・外国人転入におけるプラスとマイナス両面があると思う、本当の意味で白馬になじみ人に関わってよい関係を築いていけたらと望む。 ・積極的な定住移住の政策を望む。何か制度を設けるべき。 ・国外より国内の増加を増やすべき。 ・地域おこし協力隊の活動内容がわかりづらい。 ・就労の検討。労働力人口の移住がメインか、リタイヤ世代の移住がメインか。内容や参加状況の解りやす伝
					人口の社会増数	111	170	312		111	官民協力し、村の魅力向上に努め人口維持、増を図ります。30年度実績値は外国人の転入増加が大きき要因です。30年度に移住交流のための地域おこし協力隊を採用し移住施策に取り組みました。			
					地域おこし協力隊員数	0	7	10		10	各課、業務内容研究し、定住に繋げるような工夫が必要です。地域おこし協力隊の活動内容報告を広報等で行い活動を周知したいと考えています。			
					移住イベント出展回数	0	2	2		2	北アルプス広域との広域連携を含めて白馬村だけでなく、圏域への魅力を創出しています。			

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント		
			多文化共生	総務課	意見交換会開催回数	1	1	1		2	通称マナー条例の検証と連携しました。庁舎内課名や封筒用英語表記を実施しました。			えることが必要である。		
			村外の白馬ファンの活用	総務課	ふるさと白馬応援し隊員数	50	70	73		70	目標値は達成しました。会員数は増加傾向ですが、メルマガ、其他媒体、イベント等を通じ隊員、白馬ファン増を図ります。					
					隊員主催イベント回数	0	1	2		1	移住ツアーを秋冬実施しました。次年度に向け、反省事項を活かし拡充します。					
安心・安全の生活を支える村づくり	防災・減災の強化	地域支え合い支援	健康福祉課・総務課	総務課	支え合いマップ作成地区	17	19	21		30	平成22年度から毎年マップ作り講習会を開催してきており、昨年度策定済みとなった地区は21地区となりました。マップは、災害時だけでなく、日常の地域での支え合い活動に活用に視点を換え、講習会を開催して行く。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.2	・防災訓練等の参加者がかなり減少傾向にあることから、村民に対する防災意識を高める施策が必要なのではと考える。 ・村民が常に防災等に関心を持ちマップの活用に期待する。 ・村全体の防災の取り組みに対する村民の関心があまり向けられていないと感じる。お忙しいとは思いますが地区あるいは数か所地区という小さいまとまりの防災訓練などの取り組みなど工夫があるとよいかと思う。		
					防災・災害情報の伝達	0	方針決定	構築	仕様確定及び公告	1	白馬村の防災情報配信システムが必要とする機能を精査し、システム仕様を確定しました。白馬村にとって最適なシステム方式を採用し整備するため、最新の知識を有し、情報通信技術に精通している民間事業者から、公募型プロポーザル方式により広く提案を求めることとしました。					
					消防団活動	消防団協力事業所数	6	6	4		10				村内の事業所に、広報紙等を活用し告知します。また、該当する事業所へ直接案内するなどアプローチを仕掛けます。	
						消防団員応援ショップ登録店舗数	-	7			20					
					自主防災組織	総務課	自主防災組織設立地区数	26	26	26					30	未設置の地区に区長会議等で周知します。また、該当する区へ直接案内するなどアプローチを仕掛けます。
					村全体の防災への取り組み	総務課	地震総合防災訓練等参加者数	120	98	75					240	神城断層地震の経験を風化させないよう、自主防災組織や各種組織と連携を図り、訓練内容の充実に努めます。
					治山治水（国庫、県単関係）	建設課・農政課		-	砂防13件 治山8件	砂防7件 治山8件	-				-	【建設課】新規の砂防施設、既設施設の修繕、砂防施設の有効利用等 砂防施設の充実に係る要望を長野県姫川砂防事務所へ毎年実施しています。 【農政課】蕨平地区（ホテル東）の公共治山工事に着手し2年間で完了予定です。
日常の住みよさの確保		もてなしの村づくり	総務課		-	(アンケート)	(意見交換)	-	-	毎年、マナー条例の検証を行っています。H30は、職種別に意見交換会を開催(5回)し、新たな職種や店にも周知を行いました。また、警察官と同行し、飲食店などに直接周知しました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・刑法犯罪が増加していることは問題である。外国人の増加との関連等も含め、その原因を探り、何らかの対策を取ってほしい。 ・特にないが白馬村の道路の改善が必要であると考え。 ・外国人だけでなく日本人のマナーでも気になることも多いので、村のマナー条例の周知を望む。公共交通網の整備と充実は村民・観光客両面からの希望要望が強いと思われ			
		地域防犯力の向上	総務課	刑法犯罪認知件数	79	94	115		50	大北防犯協会連合会、大町警察署、白馬交番等関係機関と連携し、防犯対策を行い地域や家庭における防犯思想の普及を図ります。						

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			交通安全の推進	総務課	交通事故発生件数	34	42	31		25	白馬村交通安全協会、大町警察署、白馬交番等関係機関と連携し、交通安全対策を行い、地域や家庭における交通安全思想の普及を図ります。			5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない
			村内の移動手段の確保	総務課・健康福祉課・観光課・教育課		-	(公共交通会議)	(公共交通会議)	-	-	地域公共交通網形成計画を策定しました。			
			生活と観光と医療のための道路整備	建設課	インフラ長寿命化点検済施設数	12	72	橋梁設計1箇所 修繕工事3箇所	113→107	橋梁点検(107橋)はH29に完了しました。その結果を踏まえ、危険度の優先順位を付したうえで、H30は3箇所の修繕工事を施工しました。残りの危険橋梁等については、長寿命化計画に基づき、修繕を進めていく予定です。				
			安全な住宅の提供	建設課・総務課	村営住宅戸数	16	30	30	34→30	平成28年度に村営住宅を建設して以降、新設はありません。引き続き入居者と連携しながら施設の適正な維持管理を行っています。				
					長寿命化が必要な村営住宅戸数	16	12	6	0	白馬団地について現状把握に努め適正化を図ります。				
			まちづくりマスタープランによる土地利用計画	建設課		-	(打合)	(申請)	-	-	平成31年度からの立地適正化計画策定作業を見据え、平成30年度は国・県等機関との調整及び国交付金の申請手続きを行いました。			
地籍調査の推進	農政課	地籍調査済面積 (ha)	765	20	10	6	848	令和元年度も昨年度から引き続き住民要望の高い地区の調査を実施していますが、国補助金等が減額傾向にあることなどの影響で本年度の調査面積は計画より減少しました。						
支え合う福祉と健康の村づくり	子育て支援	安全な妊娠・出産への支援	健康福祉課→子育て支援課	合計特殊出生率	1.19	1.07	1.22	1.30	出生数は前年と同数でしたが、合計特殊出生率は増加しました。母の年齢が25～29歳の出産が最も多かったことによるものと推測します。子育て支援施策の充実により、現在、子育て中の方が、弟妹を望めるような環境を整備し、出生率の向上を図ります。					
				妊婦基本健診受診率	97.1%	100%	100%	100%	全員の利用が図られています。					
				不妊治療費助成件数	4	8	5	4	利用者数は横ばいです。平成30年度から不育症治療も助成対象に加えました。身心、経済面ともに負担が大きいため、相談体制の充実を図ります。					
		安心して産み育てることができる医療体制の維持・充実	健康福祉課	平日夜間救急医療事業箇所数	1	1	1	1	大北医師会の協力を得て、週6日稼働している。日によっては利用者のいない日もあるが、地域の方々に有効に活用してもらえるよう周知に努めています。					
大北圏域産科医数	1			1	1	1	市立大町総合病院の産科が継続できるよう広域的に働きかけを継続します。							
			"なかよし広場"利用者数	1,764	1,656	1,583	1,850	出生数の減少や未満児保育の拡大により絶対数自体が減少しています。本事業は、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供するといった重要な目的があることから、今後も魅力ある事業の実施や未利用者のお誘いにより、利用率の向上に努めてまいります。						

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			子育てに関する交流や相談の場づくり	子育て支援課	"自由利用"利用者数	1,119	633	573		1,200	出生数の減少や未満児保育の拡大により絶対数自体が減少しています。しかしながら利用者目線に立って、今年度は利用可能日を拡大いたしました。将来的に、何時でも誰でも利用できる支援ルームを目指して、体制や施設利用を検討します。			
					子育て支援センター相談件数	44	46	256		60	子育て世代包括支援センターの開設に伴い、妊娠前から18歳までの各種相談対応を一本化しました。少ない人的資源を有効活用することで、きめ細かな相談対応が可能となり、相談件数は格段に増加しました。 さらに今年度は、母子保健事業も加わったことから、すべての子育て関連施策が一元化され、相談件数の増加が見込まれます。			
		子育て家庭への経済的支援		健康福祉課→子育て支援課	小児インフルエンザワクチン助成	-	591	687		985	助成への認知度が高まり、接種者数が増加し、地域全体のインフルエンザ感染の拡大防止に効果が得られています。			
				子育て支援課	子育て家庭優待パスポート協賛店舗数	20	26	30		24	村内協賛店舗数の目標値は達成していますが、「地域のみならず子どもと子育てを応援しよう」という意識を醸成するため、広報等による積極的な周知活動により、協賛店舗の更なる拡大に努めます。			
		子育てと仕事の両立支援		子育て支援課	休日保育利用者数	213	234	343		250	出生数は減少していますが、観光産業が主産業である本村では、休日保育の需要は増加傾向にあります。しかしながら休日保育を担当する保育士は、保育園または支援ルームの保育士が交代であることから、保育需要に応えるには保育士の負担増が懸念されます。事業拡充と合わせて保育士確保施策の推進が必要です。			
					放課後児童クラブ利用者数	351	432	448		470	共働き世帯や自営業世帯が多い本村では、特に観光産業の繁忙期を中心に需要が高まっています。今後も事業を継続実施する体制が必要ですが、あわせて他の放課後の子どもの居場所づくり施策（放課後子ども教室、社会教育、社会体育、青少年健全育成）の推進も必要です。			
		障がい児支援		健康福祉課	児童通所給付利用者数	90	178	309		100	教育機関等との連携による事業所が周知されてきたことにより利用者が増加しました。必要な者がサービスを確実に利用できることを重視します。			
		障がい者支援			障害福祉サービス利用者数	40	46	41		55	必要な者がサービスを確実に利用できることを重視します。全利用者の計画相談を基に必要なサービスを実施します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.0	・障害者が必要とする支援を確実に届けられるよう努力を続けていただきたい。 おおむね成果が得られている、更なる支援に期待する。 ・各サービスの充実感はあると考える。 障がい者や家族だけでなく、周りの人も、障がい者やサービスを知ることが良いと考えるので、多方面への発信が増えるとういよと考える。 ・病児保育も必要であると思う。 ・更なる努力を期待したい。
			地域における自立生活の支援	健康福祉課	共同生活介護支給決定者数	7	15	12		17	必要な者がサービスを確実に利用できることを重視します。希望者の要望現状に合わせ支援します。			
					地域移行支援利用者数	0	0	0		1	必要な者がサービスを確実に利用できることを重視します。病院、施設等と連携し希望者の現状把握に努めています。			

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント	
					日常生活支援用具給付件数	160	178	142		180	必要な者がサービスを確実に利用できることを重視します。希望者の要望現状に合わせ支援します。				
					日中一時支援事業利用件数	209	472	483		300	必要とする者は利用できています。希望者の要望現状に合わせ支援します。				
			社会参加の促進と就労支援	健康福祉課	法定雇用率達成企業数	0	1	(ハローワーク照会中)	1	障がい者の就労に関する理解が必要です。雇用主を対象とした勉強会を開催します。					
					障害者優先調達推進法調達額	360,960	351,760	356,680		400,000	取扱品目の拡大を働きかけます。				
			権利擁護の体制づくり	健康福祉課	成年後見制度利用支援事業	0	0	0		1	成年後見制度の利用はありますが、本事業の該当者はありません。				
			人にやさしいまちづくりの推進	健康福祉課・建設課・総務課	居宅生活動作補助用具支給件数	1	1	0		3	H30申請はありませんでした。				
					地域福祉総合助成事業住宅改修件数	2	1	0		3	H30申請はありませんでした。				
					通訳者派遣利用回数	10	17	19		17	必要とする者は利用できています。希望者の要望現状に合わせ支援します。				
			高齢者福祉	地域包括ケアシステムの構築	健康福祉課	介護予防取組みグループ数	19	22	22		24				新規に介護予防活動を行う団体が1団体増加しました。
						介護予防事業参加者数	5,839	6,836	5,976		7,000				様々な機会を用いて、介護予防の啓発を行いました。高齢者の集いの場にもなっています。
	地域ケア会議開催回数	6				6	6		6	介護、福祉に関わる多職種の参加により、地域の課題等の検討を行いました。					
	生活支援サービスの体制整備	健康福祉課		配食サービス食数	1,693	2,513	2,954		2,000	地域包括支援センター及びケアマネジャー等がサービス利用の必要性を判断し、速やかに利用に結びつけています。					
				乗合タクシー利用者数	7,729	6,898	7,380		8,100	乗客数は前年度比7%増加した。令和元年5月7日～10月31日まで、土日、祝日と17時便を1便増やし実証運行をしている。					
	高齢者の生きがいづくり	健康福祉課		白馬シニアクラブ会員数	964	1,152	1,236		1,000	シニアクラブの会員数は、年々増加しており、活動も介護施設でのボランティアなど活発に行っています。					
				シルバー人材センター登録者数	639	609	613		700	入会説明会を定期的に開催しており、新規加入、脱退がありますが前年度比で4名の増加となりました。					
	認知症対策・権利擁護の推進	健康福祉課		認知症サポーター数	638	730	910		1,000	小学校4年生に加え、中学2年生に対し、認知症サポーター養成講座を開催しました。					
	健康づくりと地域医療の充実	生活習慣病予防の推進		健康福祉課・住民課	特定健診受診率	47.1%	55.7	55.3 (速報値)		60.0%	29年度の確定数は55.4%。年々増加していますが、目標60%を目指します。				
					特定保健指導指導率	73.3%	67.7% (速報値)	未確定		75.0%	29年度の速報値は67.7%です。H30は未確定です。目標達成を目指します。				
		食育の推進	健康福祉課 教育課・農政課	食育ボランティア登録者数	22	29	28		30	ボランティアの高齢化により、退会する方もできています。新規会員の登録に努めます。					
				平日夜間救急医療事業実施日数	289	290	R1.7月確定		維持	大北医師会の協力により、週6日稼働。開設から12年が過ぎ、大北地域の初期救急における一定の役割を果たしています。					

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			地域医療体制の確保	健康福祉課	平日夜間救急医療事業患者数	522	495	R1.7月確定		維持	大北医師会の協力により、週6日稼働。開設から12年が過ぎ、大北地域の初期救急における一定の役割を果たしています。			
					在宅当番医制度事業実施日数	285	214	R1.7月確定		維持	大北医師会の協力により北部・中部・南部の三ブロック制により、休祝日・年末年始（北部地区は7月末～9月初旬の土曜日含む）の緊急救急医療体制の確保と充実を図り医療業務を実施した。			
					在宅当番医制事業内科数	3	3	3		3	同上			
					在宅当番医制事業外科数	1	1	1		1	同上			
					在宅歯科当番医事業実施日数	75	71	R1.7月確定		維持	平成18年度より在宅当番医を置き、緊急の医療体制の確保と充実を図り医療業務を実施した。			
					スキー傷害診療実施日数	42	41	42		維持	冬期間の土日・年末年始・祝祭日に実施。北部地域のスキー傷害緊急救急体制を確保できている。外国人も対応しています。			
					スキー傷害診療患者数	1,274	1,298	1,353		維持	同上			
自立的・効率的で健全な行財政の村づくり	情報通信技術の活用	個人番号カードの普及及び活用による住民サービス向上	住民課	個人番号カード交付率	-	8.50%	9.95%		20%		運転免許返納者の身分証明書(写真付の場合)ともなることから、返納者の情報を把握し周知していきたいと考えます。 また令和3年(2021年)度から、マイナンバーに健康保険証の機能が追加される予定となっています。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.2	・個人番号カード交付率はなかなか伸びていないと感じる。なんらかのメリットをアピールする必要がある。
		広域ネットワークの構築	総務課		-	(2回)	(2回)	-	-		広域情報部会において今後のあり方について研究しています。			
		情報通信環境の整備・活用	総務課		-	(SC実施)	(SC実施)	-	-		進化する情報機器や外部からの脅威に対し、国県の指導に基づきセキュリティー対策等随時実施しています。			
	行財政改革の推進	魅力ある人材の確保と計画的・効果的な職員研修	総務課	市町村職員研修センター研修受講者数	32	26	52		60		積極的に受講しています。このほか庁内の全体研修を5回実施しました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・研修受講者数が大幅に増えているのは人材育成の観点で大いに有意義なことである。 財政健全化はかなり厳しいと感じる。 ・研修への参加率向上は、積極的に行う行政改革に期待する。
					大北圏域相互乗入研修回数	-	17	14		15	大北圏域内の市町村と連携しお互いの魅力の向上を図るため、研修の種類を増やしていきます。			
		財政計画の策定と財政状況の分析	総務課		-	(統一的基準の財務四表)	(統一的基準の財務四表)	-	-		28年度に固定資産台帳を整備しました。それに基づいて29年度から統一的な基準による財務四表を作成、公表しています。			
		財政健全化	総務課・税務課	実質公債費比率	11.8%	9.40%	9.90%		12.0%	未満	30年度数値は、速報のため修正の可能性があります。 神城断層地震災害復旧事業債の元金償還開始等により増加となりました。			
				将来負担比率	22.9%	36.20%	65.40%		30.0%	未満	30年度数値は、速報のため修正の可能性があります。 30年度も地方債の借入れが増え、起債現在高の増加に伴って、29年度に引き続き増加傾向となっています。			
			税務課	-	-	97.8	98.2	98.3	-		<村税収納率の向上> 五輪景気、バブル崩壊等による大口滞納案件について、一定の整理が進み滞納繰越額は最高10億円程度あったものが3億円台にまで解消されています。引き続き滞納処分等を粛々と行い徴収率向上を目指します。 R1年度目標 98.3 R2年度目標 98.5 各年度150万円程度の増を目標にします。			

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			公有財産管理	総務課		-	(個別計 画策定)	(個別計 画策定)	-	-	H30年度は個別施設計画策定に着手しました。 R元年度完成を目指しています。			
産業_新しい仕 事をつくりだす村	「世界水準」を意識し た観光の村づくり	競争力と持続可能 性を高める観光地 経営	白馬連峰への眺望 の魅力最大化	観光課・ 建設課・総務課	観光入込数(通年) 目標値(H31)250万人 観光入込数(4~11月) 目標値(H31)120万人 外国人観光客延滞泊数 (H31)100,000泊	-	(FWT)	(FWT)	-	-	世界に生中継される大きな注目を集めました。大 会自体は大きな盛り上がりを見せましたが、国内や 村内へのプロモーションが今後の課題です。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.3	・ウインター・グリーンシーズン共に観 光客の減少傾向に歯止めがきかな い状態が続いている。打開策の決め 手に欠けているように思う。 ・今年は例年になく夏季はお客様が 増加したと感じる。行政と村民の連 携の強化に期待する。 ・公共交通を利用して観光に來ら れる外国人にとっても、また通年観光 客を取り込むためにも、車を持たない 年代人にも動きやすい公共交通が 必要だと考える。村だけでなく隣市 町村も含め、JRや高速バスなどの 連絡の良さなど全体的につながりが 欲しいと考える。 ・村内にどのような経済効果があつた のか。 ・グランピングは既存の産業(宿泊業 等)への影響はないか。
			核となるスキー場と 宿泊拠点の再生	観光課	ウインターシーズン(12-3月) 観光客数(万人)	100	98	95	130	インバウンドは好調の一方日本人は減少しておりま す。シーズン序盤の降雪にも恵まれず全体として減 少となりました。				
			国際リゾートに相 応しい受入環境整 備	観光課・総務課	HAKUBA VALLEY Wi-Fi 整備箇所	0	7	7	8→7	予定か所整備完了しました。※2020目標値を修 正します				
			魅力の多様化に向 けたコンテンツ創出	観光課	グリーンシーズン(4-11月) 観光客数(万人)	113	107	108	120	グランピング事業に加えドローン活用による次世代 型山岳観光への取組みを支援します。				
			観光業の活性化・ 平準化による安定 的な雇用創出	観光課		-	未来投資 事業開始	地方創生 推進交付 金事業継 続	-	-	地方創生推進交付金事業の継続実施の取組み を支援していきます。			
			地域特性を活かし たスポーツツーリ ズムの推進	生涯学習 スポーツ課・ 観光課	スポーツ観光客数(万人)	101.5→ 104.0	101.1	97.9	113.6	実績値は観光課の目的別観光客推計(1 -12月)の登山とスキーを使用しました。天 候状況により微減となりました。				
					白馬ジャンプ競技場リフト乗車人数	74,061	56,948	54,673	83,000	長野県の索受け改修工事で、11月の営業ができ なかったことにより、入込が減少しました。				
					スノーハーブクロスカントリー大会出場者 数	2,121	2,370	2,239	2,300	広報、運営の充実により参加者2,000人以上で 安定しています。大会の方向等を考え、更なる増 加を目指します。				
					FISサマーグランプリジャンプ大会来場者 数	6,580	13,390	4,300	7,300	冬季五輪直後たつたことや台風の接近などが重 なり減少しましたが、その後日本人選手が活躍する 契機となり、 令和元年度にスポーツ拠点づくり推進事業補助 金が終了となるため今後の事業運営を踏まえ 検討を行います。				
					スノーハーブマウンテンバイク大会参加者 数	280	733	240	310					
			観光施設の維持 管理	観光課		-	(随時パ トロール)	(随時パ トロール)	-	-	村営天狗山荘雪害による大規模損壊により、復 旧に向けた修繕工事を実施します。			
			広域観光の取り組 み	観光課		-	(随時打合)	DMO化	-	-	三市村DMO、大糸線活性化協議会等との事 業連携を図り、引き続き広域観光の推進に取り組 みます。			
			農地と森を守り地産 を活かす村づくり	優良農地の保全	里山環境の保全	耕作放棄地面積(ha)	15.8	9.2	9.2	9.2	10.0			
多面的機能支払交付金取組面積 (農地維持)(ha)	404.64	404.41				404.41	422.98	410.00	令和元年度より新たな計画に基づく事業が開始さ れ、新計画策定の段階において農地の追加等の 指導が行いました。					
農業施設の維持 管理	農政課	多面的機能支払交付金対象面積 (長寿命化)(ha)			315.09	366.46	366.46	391.59	400.00	令和元年度より新たな計画に基づく事業が開始さ れ、新計画策定の段階において農地の追加等の 指導が行いました。				
ほ場整備の推進	農政課	新規地区(北城)(ha)			-	40.8	40.8	0	30	北城南部地区のほ場整備事業は、今年度(令 和元年度)は換地計画原案を地権者に丁寧に 説明を行い、承諾をいただいているところです。現 在のところ順調に事業が進んでおります。				
										5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.7	・耕作放棄地が減少したことは評価 できる。 農産物被害額が大幅に減らすことが できているのは大きな成果だと思う。 ・荒れた農地の改善と認定農業者へ の支援が必要である。		

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント					
			認定農業者への支援	農政課	農業機械等購入補助件数（累計）	-	7	5		30	国庫補助事業が統一された影響で農機具更新のハードルが高くなっていると感じます								
					認定農業者への農地利用集積面積 (ha)	359	399	468		400	着実に集積が進み、集積率は80%を超えました。								
					認定農業者数	24	27	29		28	新たに2名が認定農業者となりました。（個人24 法人5）								
			就農体験の機会づくり	農政課		-	(4回)	(4回)	-	-	アグリスクールは収穫祭まで入れて5回開講を計画し、雨天により2回中止となった。8家族22名が参加した。R1は運営方法や思考を見直し実施しています。								
		有害鳥獣対策	農政課	農産物被害額（万円）	104.8	64.3	32.3			78	個人電気柵の補助件数が増えてきている。引き続き集落単位での長距離電気柵も継続し被害額はかなり減少した。なお、営農意欲の維持と耕作放棄地の拡大防止のため、引き続き取組みを続けます。								
		農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進	米の品質向上・ブランド化	農政課	白馬産ブランド米生産農家数	-	7	9			10				白馬村独自の基準により作付を指導し、取り組みました。実際の取り組みは10名ですが、H30は1名が休みました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・地産地消が進んでいくことが望まれる。 ・計画的な構造と道の駅の移転を要する。 ・観光客向けのみならず、村内で観光にかかわる方々への広がりがあるとよいと考える。実際観光客が食べたり飲んだりした物を手に入れる施設の充実も大切だと考える。 ・引き続き頑張ってください。	
					特産品の生産・販売強化	農政課	紫米消費量 (t)	6	7	7									8
			特産品栽培面積 (ha)	7			8	8.1			10				徐々にではあるが面積が増えています。（丘わさび、食用ほおずき、行者にんにく、ブルーベリー、紫米、ミニトマト、ジュース用にんじん）				
			地産地消の推進	農政課	地場産品売上高（万円）	2,041	2,069	2,100							2,500				道の駅販売所でのみならず、ハピア等も入れるとかなりの地場産品の売上げがあり地産地消に貢献しています。
					地産地消認定者	-	(アンケート)	(マッチング)							25				アンケート結果で、村内の食材を使いたいと回答された方々に再度聞き取りを行い、様々な意見（生産者情報・現在店頭にあるものや価格・欲しい野菜を栽培してもらいたいなど）があり、引き続き普及センターやJAと連携した取組みを図っています。
			道の駅建設と地域経済循環システムの構築	農政課・観光課・総務課・建設課	新しい道の駅	-	(探択)	(調査研究)							1				【総務課】先導的官民連携調査事業結果に基づき、民間で開発中の施設を注視しつつ、PPP・PFIの可能性について調査・研究を進めます。 【観光課】地域ならではの食を中心とした日本の魅力的な地域（SAVOR JAPAN）の認定地域として、食や食文化、特産品振興に取り組み事業を支援します。
			森林の整備と活用	農政課	森林整備地域活動支援	森林整備面積（公共造林事業）(ha)	5.1	4.58	14.7						60→ 40				森林づくり県民税を活用した緩衝体整備（2ha）、林業公社・いい森づくりの会・山仕事創造舎による間伐等（10.6ha）、林業経営者協会による森林整備（2.1ha）を実施しました。目標値に近づこう努力します。
		森林資源とふれあう機会の創出			農政課・観光課		-	(5回)	6回	-	-				【農政課】大北森林祭（1回）、木流観察会（4回）、森林の里親事業（1回）、合計6回開催しました。				
		商工業の振興により雇用を生みだす村づくり	商工振興・創業支援	商工振興	観光課	小規模事業者経営改善資金助成金額（万円）	108	140	125						162	創業者の支援とともに小規模事業者支援に取り組めます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果	3.4	・創業者数が増えていることは良い傾向である。

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
り			創業支援と空き店舗活用支援、後継者支援	観光課	空き店舗の斡旋と活用件数	-	0	0		5	空き店舗の斡旋等のシステムづくりが課題です。	3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない		・サテライトオフィスが新しいしごとの創出（雇用）につながっているのか疑問を感じる。 ・更なる推進に期待する。
					創業支援者数	3	9	4		10	順調に推移しています。			
			新しいしごとの創出	総務課	サテライトオフィス企業数	-	1	1		1	29年度総務省ふるさとテレワーク事業を活用し、県、民間企業とコンソーシアムを組み、旧ノルウェーヴィレッジをテレワーク拠点としました。平成30年度末までサテライトオフィス・ベース1社（ヤフー）、本社企業2社（モンスタークリフ、しくみ）に活用いただいております。平成31年度4月からは本社企業1社（しくみ）に活用していただいております。テレワーカー利用者も増えつつあります（30年1,452名）。今後は利用者増を目指します。			
	民間活力を活かす村づくり	産官学金労言連携	大学・企業等との連携	総務課・観光課・健康福祉課・農政課・教育課	連携協定に基づき進行中の事業	-	4	6		5	【総務課】ヤフー株式会社、SBドライブ株式会社、信州大学、東京農大と連携協定しています。H30年度はスノーピーク、KDDIと新たに連携協定を締結しました。但し、連携しているものの事業実施が進まない協定先あります。協定はありませんが村内にスポーツキャンパスのある桜美林大学とも連携進めます。信大とは研修を行い、先生方の紹介をしていただき実施した事業もありました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・順調に事業が増えているようなので、さらに進めてほしい。 ・外部からの意見・刺激が少しずつ村づくりに生かされることを望む。 ・連携実態が解らない。
ひと一人ひとりが成長し活躍できる村	学びあい育てあう村づくり	次代を担う子どもたちの学習支援	「自ら学び、自ら考える力」と「生きる力」の育成	教育課	中学校情報端末活用生徒数（延べ）	0	50,607	53,200		900	平成27年度から開始した1人1台のタブレット端末導入事業は、平成30年度に全学年への配備が完了し、無線LAN環境下での電子黒板や教室備え付けテレビ等と連携した授業の本格実施が全学年で可能となりました。中学校に配置しているICT支援員をフルに活用し、ICTを活用した授業の設計・実施のサポートに努め、教員のICT活用指導力の向上を図ります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.0	・情報端末の配備はすでに済んだので、その有効な活用方法を検討し、効果を高めていく努力が必要である。 ・更なる推進に期待する。 ・白馬高生のみならず、村内の学生にも広がり、村全体の子どもの成長、育成につながるよう願う。
				小学校情報端末活用児童数（延べ）	0	8,232	8,264		690	両小学校では、パソコン教室の端末をタブレットモードが可能な機種を導入し、クラス単位で1人1台の情報端末を活用していますが、現在のところ、これ以上の配備を望む声は両小学校から上がっていません。新学習指導要領の全面实施やICT活用の進展を見ながら、今後の情報端末利活用について、学校と協議しながら進めてまいります。				
			地域に開かれた学校づくり	教育課	信州型コミュニティスクール設置校数	0	3	3		3	小中学校3校への設置が完了し、各校コーディネーターを中心に事業を展開しています。今後は、国が進めるスクール・サポート・スタッフとしての活用など、教員の働き方改革にもつながる人材の確保に努めます。 また、地方教育行政法に基づくコミュニティ・スクール（学校運営協議会）への移行を視野に入れ、地域と共にある学校づくりを推進します。			
			安心・安全な学習環境づくり	教育課		-	-	-	-	-	白馬村村立小中学校長寿命化計画に定める中期的学校施設等投資計画に基づき、計画的な事業推進を図ります。			
			地域を担う人材の育成	総務課（白馬高支援）	しろつま学舎塾生数	-	55	47	63	60	2019年度の数字は7月現在。入塾生の数も増加傾向にあり、大学進学を考える塾生は積極的に受験コースを受講しています。今後は、白馬高校生以外の小谷・白馬地区の入塾について考えなければならぬと思います。			
		自己実現を目指す生涯学習と青少年育成	限らない向上心を支える生涯学習	生涯学習スポーツ課	平均講座受講者数	15	22.2	19.4		22→25	平成30年度は18講座、延べ参加者数1,106名となりました。人数制限のある講座もあり、平均講座受講者数は伸びませんが、受講者延べ人数は増加傾向にあります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.8	・新図書館建設に向けて、村民の関心を高める努力をしてほしい。 ・新しい図書館について更なる検討が必要。

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			図書館の充実	生涯学習 スポーツ課	図書館来場者数（延べ）	12,800	13,811	15,274		25,000 → 16,000	新図書館建設関連の広報などが村民の関心を引いたことが来場者数増加の主な要因となっています。今年度は新図書館での事業検証のため、図書館内でのイベント開催を検討し、さらなる利用者増加を図ります。			・文化イベント開催に多くの興味があるように思う。村外へ行かずとも体験できることは皆さんの日常を豊かにすると思う。
			人権教育の推進	生涯学習 スポーツ課・ 住民課		-	74→340	300	-	350	【生スポ課】青少年育成村民大会や公民館講座を通じて人権教育の推進を図ります。 【住民課】今後も村長部局と教育委員会が連携し、青少年健全育成活動に参画します。平成30年度白馬村で開催した社会を明るくする運動白馬・小谷地区推進大会には、約130名の方の参加をいただき長野ダルクの宝木朗氏、NHK歌のお兄さんとして活躍した杉田光央氏から講演いただきました。			
			青少年健全育成事業の推進	生涯学習 スポーツ課		-	-	150		150	人権教育の推進に含まれるため削除しました。			
			文化・芸術の振興	生涯学習 スポーツ課	コンサート等入場者数（延べ）	340	926	1217		500→ 1,000	入場者は増加傾向にありますが、昨年度は航空自衛隊音楽祭があったため入場者数が急増していますので、関係団体と公演内容の充実を図ります。			
生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり	スポーツによる健康づくりと活力の創造	スポーツによる健康増進	スポーツによる健康増進	生涯学習 スポーツ課	週1日以上スポーツをする人の割合	40%	-	-		46%	R1年度調査実施します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.9	・競技スポーツ人口が全体として現象する一方で、健康のためにスポーツに取り組む人は増えているように思える。実態を把握して対応していくことが必要なのではと思う。 ・スポーツの村とするためには、グラウンド、体育館など、総合的な設備が必要である。 ・生涯スポーツというのだから長い目で利用者などの動きをみていきたいと思う。高齢化に向けても考え、介護予防へとスムーズにつながるとういことを考える。
					体協・総合型地域スポーツクラブ主催教室参加者数	4,166	3,973	4,679		4,700	指導者との連携を強化し、増加に結び付きました。R1年より体育協会で事業を引き継ぎ、更なる充実を図ります。			
			子どもが日常的に楽しくスポーツに取り組むことができる環境づくり	生涯学習 スポーツ課	中学生のスポーツ実施率	73.0%	-	-		83.0%	R1年度調査実施します。			
					小学生のスポーツ実施率	67.8%	-	-		77.0%	R1年度調査実施します。			
			スポーツ競技者の競技力向上	生涯学習 スポーツ課	スポーツ功労賞等受賞者数	22	36	19		25	ウインタースポーツ以外でも日本のトップに位置する選手がはじめています。引き続き受賞者の掘り起しを行います。			
					スポーツ少年団登録者数	362	318	324		410	減少傾向にあり、普及、登録者数増に向けた体験会を、具体的に回数を示して各団体へ依頼しました。			
					体育協会加盟団体登録者数	1,142	1,098	971		1,280	減少傾向にあり、普及、登録者数増に向けた体験会を、具体的に回数を示して各団体へ依頼しました。			
					白馬村スキークラブ競技登録者数	62	64	39		70	村の文化でもあるスキー競技の発展に向け、スキークラブと連携し、登録者増加を目指します。			
					総合型地域スポーツクラブ登録者数	209	311	214		230	登録者数は減少しましたが、活動全体の参加者は増加しています。引き続き活性化に向け取り組みます。			
			スポーツ施設の整備及び充実	生涯学習 スポーツ課	社会体育施設等利用者数（延べ）	86,935	71,204	73,606		96,000	南部クラウンドの大規模改修により利用できない期間がありました。インターネットを通じた施設予約システムを検討するなどして、利用者の増加を目指します。			
					ウイング21利用者数（延べ）	53,946	73,974	57,513		60,400	利用者数は減少していますが、利用料収入は増加傾向にあります。利用者数も増加するよう関係団体と連携を強化します。			
					クロスカントリー競技場利用者数（延べ）	12,121	12,203	12,513		13,500	降雪が少なかったことにより、ウインターシーズンの利用者が減少しました。しかし、選手の減免利用（選手等）は増加してきているので、今後も利用者増加を目指します。			
一人ひとりに活躍の場がある村づくり	人のつながりによる活力の創出	多様な人々が交流する機会の創出	総務課		-	(2回)	(2回)	-	-	東京においてふるさと納税高額納税者、ふるさと白馬応援隊とヤフー社員を対象とした懇親イベントを実施しました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない	3.4	・若者の交流イベントを大北地域に集約したのは良いと思うが、元々目標は低すぎという印象を受ける。	

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			若者交流・結婚支援	総務課	村内の若者交流イベント開催回数	-	2	0		1	大北地域で開催される若者交流イベントを協力して実施します。	1 ほとんど進んでいない		
					広域連携による若者交流イベント開催回数	-	2	2	1	山麓クリバ、山麓ハロウィンを開催しました。(約110名参加)				
		男女共同参画社会の推進	女性活躍の推進	総務課	講演会開催回数等	1	0	12		2	誰でも参加できる、こども食堂への補助を実施しました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.2	・講演会等も増え、女性職員等も参加できる等、積極的な動きも評価できる。 ・女性の活躍の場の推進に期待する。 ・女性も働きやすくとのおいから、就業時間子育てサービスなど多方面との協力体制があるとよい。 ・子供食堂の補助が男女共同参画になるのか？役職や議員などの女性の割合が少ない。
					白馬村役場の女性職員の採用割合	0	16.7	25	30	一般事務職（保育士、保健師等除く）。職員の採用にあつては、男女問わず、試験及び面接等により判断しているところです。今後は女性の申込者を増やすため、積極的に周知していきます。				
自然 魅力ある自然を守る村	かけがえない山岳自然環境を守る村づくり	天恵の自然との共生	自然環境保護	観光課・総務課・生涯学習スポーツ課	環境配慮型トイレへの改修	1	1	(天狗山荘復旧)		2	【観光課】山岳トイレについては改修時には環境配慮型へ移行するよう検討します。なお、天狗山荘の復旧を優先しますので施行時期は未定です。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.2	・山でのトイレ問題は重要だと考える。今後とも環境配慮型の推進を行ってほしい。 ・山岳トイレの改修を早急にすることが必要である。
					自然エネルギーの利活用	クリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用	農政課・観光課・総務課	小水力発電量（万Kwh/年）	-	115	120			
		ペレットストーブ購入補助件数（累計）	5	15	20			30	県費補助金の縮小もあり新規台数は少な目です。					
		ペレット販売数量(袋)	689	1,085	1,432			1,200	住民からの要望に応えられています。					
					低公害公用車両数	4	5	6	6	H30は小型ハイブリッド車（フィット）を購入しました。				
自然との生き方を受け継ぐ村づくり	守るべきふるさとの歴史と文化の継承	先人が築いた有形・無形文化継承	生涯学習スポーツ課	歴史民俗資料館や復元古民家で文化財に係る活動を行った回数	-	8回	10回	-	10回	古文書講座の開催や文化財の整理を行いました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.3	・村内でもスキーへの関心が低くなっていることはさびしい限りである。スキーの楽しさを伝える工夫が必要だと考える。 ・村の子どもたちが、雪国でのスキーは必至、スキー教室等の回数を増やすことを検討する必要があると考える。	
				週1～2回スキーをする小学生の割合	29.0%	-	-	33.0%	R1年度調査実施します。					
		週1～2回スキーをする中学生の割合	20.8%	-	-	24.0%	R1年度調査実施します。							
		週1～2回スキーをする成人の割合	8.7%	-	-	10.0%	R1年度調査実施します。							
		登山・スキーの歴史・文化の継承	生涯学習スポーツ課	体協スキー教室参加者数	81	79	73	90	平成30年度よりスキー教室の運営を白馬村スキークラブで実施するよう調整しました。今後は、スキー場とも調整し、村民が参加しやすい様対応していきます。					

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
美しい景観を守り育む村づくり	自然環境に調和したまちづくりの推進		世界水準の観光地に相応しい開発基準	総務課		-	基準改定作業	新基準適用	-	-	大規模開発新基準を住民に周知するため、10回に渡り広報誌掲載しました。H30年度の大規模開発は1件でした。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.5	・景観形成と大規模開発は相反する内容である。大規模開発は抑制し、より強い姿勢で景観計画を進めてもらいたい。 ・不法行為に対する行政の厳しい指導が必要である。特に外国人対応が必要である。 ・数年前より外国人が来村し、空き家を購入し内外部を大きくリフォームしているが、建築規制はあるのか？
			美しい風景を守るための景観形成	総務課		-	(3回)	景観計画策定開始	-	景観行政団体移行	景観計画策定に着手しました。住民や白馬ファン意見公聴のためワークショップ(3回)やフィールドワーク(5回)実施し、中間報告を作成しました。芝浦工大、名古屋大の建築を専攻の先生、学生に協力を戴きました。			
			空き家・廃屋対策	総務課		-	(26件)	(21件)	-	-	自己の財産は自己で管理するということを基本に地区と連携し、景観保持等に努めました。パトロールや所有者との折衝をした結果、件数は減少しました。			
			不法投棄・野外焼却の防止	住民課		-	(週1回)	(週1回)	-	-	・引き続き不法投棄監視員による巡回を行っています。(週1回) ・野外焼却の禁止については、特に外国人住民向けに英文チラシを作成し、配布しています。			
きれいな水と空気に囲まれる村づくり	ごみ処理広域化への対応とごみ減量化	ごみ収集・運搬体制の強化	ごみ収集・運搬体制の強化	住民課	地区集積場箇所数	52	67	74		57	リサイクル物のみの集積場・小規模ステーションも含めると、30行政区すべてに設置された状況となりました。各行政区の状況に合致する収集場の形態を地域と共に模索・追加設置も視野に進めていきたいと思えます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.8	・ゴミ問題に関しては全体に成果が出てきているが、さらに進めるために村民の意識向上をはかる施策を推進すべきである。 ごみの処理について村民に周知させる徹底が必要である。外国人の意識が低さへの対策も必要である。 ・住民の意識の問題もあり分別など大変だが、広報課活動など今後もよろしく願いたい。
					生ごみ処理機利用世帯数	150	207	216		300	統計上のごみの排出を抑制する上で、生ごみの自己処理が進むことは好ましいことから、今後も導入補助を継続します(行政が設置する生ごみ堆肥化施設は、統計上行政収集量に区分され排出抑制につながりません)。			
			ごみの削減と分別の徹底	住民課	焼却ごみの量(t/年)	3,000	2,898	2,856		2,900	白馬村・小谷村・大町市から排出される焼却ごみの排出量の比率がごみ処理負担金の比率となります。 「分ければ資源、混ぜればごみ」の観点でごみの分別を推進するため、ごみの出し方早見表の全戸配布、行政区別のごみ分別の講習会開催を継続していきます。 また排出抑制の観点から、プラスチックごみの削減のため長野県が推進する信州プラスチックスマート運動の3C(チョイス(意識して選択)、チェンジ(すこずつ転換)、コレクト(分別して回収))について、この3Cを意識した消費行動を消費者に、販売行動を事業者へ周知していきたいと思えます。			
			北ア広域連合との連携によるリサイクルセンターの活用とリサイクル率の向上	住民課	リサイクル率	22%	-	(今後国が実施する統計調査で確定)		30.0%	リサイクル率向上のため、今後も4R(リフューズ(不要な物を買わない)、リデュース(ごみを出さない)、リサイクル(資源として再利用)、リユース(繰り返し使用する))を意識した消費行動を消費者に、販売行動を事業者へ周知していきたいと思えます。			
きれいで安心・安全な水環境			上水道の安定供給	上下水道課	29年度に水道施設更新計画を策定する	-	100%	70%	-	-	白馬駅前の無電柱化、県道白馬美麻線・白馬岳線の改良、松糸関連 通地区の改良事業等が具体化したため、更新計画の見直しを行い実現可能な事業計画の作成を行います。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.9	・浄化センターの長寿命化および、公営企業会計への移行とも着実に成果を得られているので評価したい。 ・白馬の水の良さなど、もっと産業化することとアピールすることが必要である。

基本目標	大分類	中分類	小分類	主管課	指標	H26 2014 基準	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
			水質保全	上下水道課	水質保全の啓発、定期的な美化清掃、自然林の保全	-	(随時)	随時	-	-	・上下水道課では、水道週間での啓発運動の実施など広報活動の充実に努めます。			
			浄化センター長寿命化	上下水道課	機械・電気設備の更新 (事業費予定総額に対する決算額の累計率) (H26年度：実施計画の策定、H27～30年度：更新の実施)	29%	53%	80%		100%	長寿命化計画に基づく更新事業は31年度で一区切りとなりますが、今後は国からの交付金を受けるためにストックマネジメント計画（5カ年計画）を策定が必要となります。 今後の更新も交付金の対象となるよう準備を進めます。			
			公営企業会計導入	上下水道課	H31.4～の地方公営企業法の適用に向け、3年計画で移行のための調査を実施 (全体事業に対する各年度の事業内容率) H28：基本計画の策定 H29：固定資産調査+評価 H30：移行に向けたシステム検討、例規の改廃	-	35%	100%		地方公営企業会計に移行済	下水道事業の安定した運営を持続していくため、今年度4月1日より、これまでの「下水道事業特別会計」から、地方公営企業法を適用した「企業会計（複式簿記会計）」へ移行しました。下水道施設をこれからも適切に維持するために財務情報を整理し、その企業性格を活かしながら、より一層の経営の効率化・健全化に努めます。			
			効率的なし尿処理方法の確立	住民課		-	(随時打合)	継続	-	-	引き続きし尿・浄化槽汚泥の公共下水道施設での受入れを検討します。 受入予定地区の合意が大前提となることから、H31においても地元との協議を進展させます。			

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント	
■ 地域の資源と人を活かした「しごと」を創出する		新規正規雇用者数 →大北地区企業説明会白馬高校からの参加者	観光課	30→8	30→8	30→8	16	50→25	大北地区合同で企業説明会を開催します。進路の一つとして、視野を広げてもらうために、参加者増加を目的として広報はくば、白馬高校と連携し生徒への呼びかけを等周知を行います。 (正職員雇用数把握が難しいため、評価指標を変更しました。)	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・呼びかけだけではなく、高校生が参加し易くなるような工夫も必要なのではと考える。例えば企業側から出向いてもらうなどはどうか？ ・周知の徹底を図る。 ・白馬で働きたいと思う人への周知など大北地区白馬高生に限らず広く行っていただきたいと思う。	
	白馬産農産物ブランド化	白馬産米ブランド化 (取組み農家数)	農政課	-	5	7	9	10	10	白馬村独自の基準により作付を指導し、行っています。1 農家が休んだため9農家となりました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.7	・徐々に進んでいるようなので、農家への支援を適切に実施して、成果を出してほしい。 ・農産物の多様性を徹底的に推進することに期待する。 ・村でも消費・活用できるよう広く農産物を手に入れられるよう工夫を望む。
		紫米の消費量 (t)	農政課	6	7	7	7	8	8	ほぼ前年と同消費量でした。また、白馬村振興公社では紫米を使用した新たな商品 (おにぎり、パン、菓子等) を制作し、販売しています。			
特産農産物の振興 (栽培面積) (ha)		農政課	7	7	8	8.1	10	10	徐々にではあるが面積が増えています。 (丘わさび、食用ほおずき、行者にんにく、ブルーベリー、紫米、ミニトマト、ジュース用にんじん)				
新たな創業支援と空き店舗の活用支援	空き店舗の斡旋と活用件数	観光課	0	1	0	2	5	5	商工会等と連携が必要です。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.2	・新規創業者数が順調に伸びているのは良い傾向である。 空き店舗の活用はなかなか難しいようだが、何とか進めてほしい。	
	店舗後継者数	観光課	0	0	0	0	3	3	商工会等と連携が必要です。				
	新規創業者数	観光課	3	5	9	4	10	10	順調に推移しています。 ※年度集計				
グリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用	ペレットストーブ購入補助件数 (累計)	農政課	5	12	15	20	30	30	県費補助金の縮小もあり新規台数は少	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.8	・小水力は目標にこだわらず、さらに進めるべきと思う。 村民の意識も高いと感じるのでさらに向上に努めてほしい。	
	ペレット販売袋数	農政課	689	971	1,085	1,432	1,000	1,000	住民からの要望に、ほぼ応えられています。				
	小水力発電量 (万KWh)	農政課	-	108	115	120	100	100	農政課：昨今の異常気象もあり、発電機に負荷をかけないよう安全運転としている。				
グリーンシーズンの観光振興		観光客数 (4~11月) (万人)	観光課	113	100	117	108	120	地方創生推進交付金を活用した、アウトドア体験型の新業態施設やグランピング事業、ドローン事業などを推進させます。また、国内外へのグリーンシーズンのプロモーションも更なる充実を図ります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・決め手に欠く感じが強いと考える。民間とも協働しながら模索する必要がある。 ・村内への経済波及効果を検証いただきたい。	

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
	道の駅の建設と地域経済循環システムの構築	道の駅売品収入額 (百万円)	観光課	249	230	219	230	300	横ばいの状況です。指定管理者による、特性ランチやSNSを利用した発信など、さらに魅力的で音連れ拓なる場所となる取り組みを実施しております。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.0	・伸びなやんでいと感じる。 さらなる発想や工夫が必要だと思う。 ・訪れたいような努力が必要である。
	観光業の体力強化に向けた計画の推進	観光客数 (万人)	観光課	224	209	218	220	250	日本人の減少をインバウンドでカバーする傾向が続いています。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・外国人観光客が順調に増加しているのは良い傾向だが、それに対応した整備も行っていくことも大切だと考える。 ・インバウンドに頼らない日本人への地域の魅力発信も続けていただきたいと思う。 ・外国人観光客をあてにする政治情勢などに影響され、安定した成果は出ない。日本人の集客に力を入れるべき
		外国人観光客延宿泊数	観光課	77,724	100,310	113,970	164,377	100,000	指標達成は確実です。近年度はオセアニアのほか、中国や台湾等のアジアも増加しております。			
	看護師と介護職員等の安定雇用	新規就業者 (看護師)	健康福祉課	0	-	-	-	2	看護師の確保には、どの機関も苦慮している状況が続いています。各事業所と連携を図りながら、専門職の確保に努めます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	2.8	・苦慮しているようだが、何とか確保できるように努力してほしい。 地域をもっと広げることも必要なのではと思う。 ・大変な仕事なので人材確保も難しいのだろうか？職員皆さんの待遇・環境などの改善もひとつの鍵では、と考える。
		新規就業者 (介護職員)	健康福祉課	0	-	-	講座開催)	4	介護人材不足は、慢性的な状況ですが、生活支援などを担う人材養成講座を、広域連合、大北5市町村合同で開催しました。			
■ 白馬への新しい「ひと」の流れをつくる		人口の社会増数	総務課	111	57	170	312	111	前年と比較して、転入者数が増えています。定住のための施策も研究します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・人口が社会増であるのは良い傾向だと考える。さらに増えるよう取り組んでほしい。
	魅力ある白馬への移住・定住支援	移住者数	総務課	-	66	15	76	20	窓口アンケートにより捕捉。30代以下が7割を占め、ほぼ全員がIターンとなっています。白馬村の暮らしの魅力を伝えるツールを制作し、情報発信に努めます。またおためし移住等の実施も行います。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・若い世代の移住者が増加しているのは良い傾向である。 ・移住者への支援の強化、白馬村の伝統を守る指導が必要である。 ・移住者が夢を持ち入ってきた後の定住「に」向け、住んでよかった住みやすい育てやすい村づくりを頑張してほしい。 ・地域課題を抽出して関連する団体に委託することも一案である。
		地域おこし協力隊員数	総務課	3	5	7	9	10	地区課題解決ため増員を図りたいが、勤務場所等の研究が必要です。(特別交付税対象400万円)			

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
		サテライトオフィスの設置企業数	総務課	-	0	1	1	1	国のテレワーク事業を取り入れ事業展開しました。			
		移住定住フェアの開催回数	総務課	0	1	2	3	2	広域や県と連携し都市部のイベントに参加します。			
	地域高校である白馬高校の魅力化	他県からの入学者数	総務課 (白馬高校支援)	0	13	18	15	15→21 (実数)	国際観光科においては、半数以上が県外、県内他地区入学者となっています。しかし、昨年度より、高校側においても地元中学への積極的なアピールを行っていることにより、普通科を併せての入学者数は小谷・白馬地区は、前年度より増加しています。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.1	・他県からの入学者数は増加傾向にあるが、それに対応した体制はもう一步充実してほしい。 ・国際観光科はそれなりに実績を上げてきたと感じる。スポーツ科の新設を期待したい。地元の子どもたちを入学させる必要がある。
	外国人の児童・生徒に対応した教育環境の整備	外国人住民登録者数	教育課	177	245	445	468	240	外国籍児童の適応指導や日本語指導を行うため、今年度白馬北小学校に日本語学習支援員を配置しました。支援員を活用した取り出し指導や補充的な指導、チーム・ティーチングにより、外国籍児童生徒の指導体制を構築します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.1	・外国人居住者が増えている以上、それに応じた環境整備や村民との交流が今後重要となると考える。
	都市部からの児童・生徒の受け入れ	受入留学生数 →小中学校転入児童生徒数 (KPI変更)	教育課	0	8	13	15	10	子育て支援施策が移住定住施策につながるように、妊娠期から子育て期にわたる総合的な子育て支援施策の充実に努めてまいります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.9	・子ども時代の経験は将来を大きく左右すると思うので、さらに進めて、やがて白馬に何らかの型でかかわってもらえるよう願う。 ・積極的な受け入れ対策に期待する。
■ 若い世代の結婚・出産・子育ての「きぼう」をかなえる		年間出生数 (累計)	健康福祉課→ 子育て支援課	63	43	46	46	350	出生数は、前年と同数でした。子育て支援施策の充実により、現在、子育て中の方が、2人目、3人目の弟妹を望めるような環境を整備し、出生数の増加を促進します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.0	・目標はかなり高いが実現はなかなか困難といえそう。少しでもその気にさせる環境整備を図る必要性はある。 ・若者の移住定住にもかかわるので数だけでは判断は難しいと考えるが、この村で産み、育てたいと思ってもらえる村づくりが大切だと考える。
	安心・安全な妊娠・出産への支援	合計特殊出生率	健康福祉課→ 子育て支援課	1.19	0.87	1.07	1.22	1.30	出生数は前年と同数でしたが、合計特殊出生率は増加しました。母の年齢が25～29歳の出産が最も多かったことによるものと推測します。子育て支援施策の充実により、現在、子育て中の方が、弟妹を望めるような環境を整備し、出生率の向上を図ります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.7	・基本健診で全員を把握できているので、そこから信頼関係をつくり、帰村後も安心して相談できるような環境作りをしたら良いのでは？
		妊婦基本健診受診率	健康福祉課→ 子育て支援課	97.1%	97.5%	100.0%	100.0%	100%	全員の利用が図られています。			

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
		新生児訪問実施割合	健康福祉課→ 子育て支援課	74.6%	93.1%	86.7%	84.8%	100%	出産後1か月以内を目途に実施します。里帰り出産や外国人等、出産後しばらく白馬村に戻らない方もいますが、帰村後、可能な限り自宅を訪問し、支援の基盤となる信頼関係の構築に努めます。			
子育てへの安心サポート	休日保育の利用者数	子育て支援課	子育て支援課	213	259	234	343	270	出生数は減少していますが、観光産業が主産業である本村では、休日保育の需要は増加傾向にあります。このような保育需要に応えられるように保育士確保施策を推進します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・保育士の確保が重要だと思う。雇用は一番難しいことだとは思いますが、一番大切なことだと考えて取り組むべきだと考える。 ・屋外での支援も必要である。 ・サポートを望む人へだけのサポートができるのか？双方のバランスがうまく合うと若者や住民の日々の暮らしが元気になると思う。手の空いた人が助け合えるといいと思う。
	放課後児童クラブの利用者数	子育て支援課	子育て支援課	351	464	432	448	470	共働き世帯や自営業世帯が多い本村では、特に観光産業の繁忙期を中心に需要が高まっています。今後も事業を継続実施する体制が必要ですが、あわせて他の放課後の子どもの居場所づくり施策（放課後子ども教室、社会教育、社会体育、青少年健全育成）の推進も必要です。			
	子育て支援センター個別相談件数	子育て支援課	子育て支援課	44	52	46	256	60	子育て世代包括支援センターの開設に伴い、妊娠前から18歳までの各種相談対応を一本化しました。少ない人的資源を有効活用することで、きめ細かな相談対応が可能となり、相談件数は格段に増加しました。 さらに今年度は、母子保健事業も加わったことから、すべての子育て関連施策が一元化され、相談件数の増加が見込			
婚活サポート事業	婚姻数（累計）	総務課	総務課	41	61	113	138	270	若者交流事業がきっかけとなるよう、出会いの場を創出していくとともに、個別のマッチングについても他の機関とともに検討を進めます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・目標へはかなり隔たりがあるが、増加傾向にある点で評価できる。 ・交流事業の更なる発展に期待する。
ICTを活用した教育の推進	中学校タブレット活用授業（延べ人数）	教育課	教育課	0	48,000	46,480	49,100	900	全校生徒1人1台のタブレット端末配備が完了しました。導入目的であった、「主体的で対話的な学び」に寄与するように、ICT支援員を活用して、教員のICT活用指導力の向上を図ります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.2	・今後は端末の有効な活用方法を研究し、教育面でより大きな効果が得られるよう努力してほしい。

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
		小学校タブレット活用授業 (延べ人数)	教育課	0	0	1,858	2,098	690	1クラス分のタブレット端末をパソコン教室に配備して運用しています。現在のところ、これ以上の配備を望む声は学校から上がっていません。新学習指導要領の全面実施やICT活用の進展を見ながら、今後の情報端末利活用について、学校と協議しながら進めてまいります。			
■ 将来にわたって住み続けたい魅力ある「まち」をつくる	新築住宅戸数 (累計)	税務課	28	94	133	183	230	新築住宅は40件程度を維持しています。また外国人が所有する建物も増加しており、住宅以外の大規模建築物についても数件計画されている状況です。2019年目標を80件ほど上方修正しました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.0	・外国人を中心とした増加が中心と思われるが、景観も配慮に入れて無秩序な開発にならないよう気を付けていただきたい。 ・建物の数だけでなく住み続けてもらえる環境づくりを今後お願いしたいと思う。	
	地域包括ケアシステムの構築	介護予防取組グループ数	健康福祉課	19	19	22	22	24	新規に1グループ増えましたが、1グループ活動休止のため、総数は変わりません。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・少しずつでも増えるよう工夫して行ってほしい。 ・支え合いマップは基本的な資料なので、すべての地域に整備できるよう進めてほしい。 ・更なる支援に期待する。 ・グループ数の増加もさることながら、参加者の数、年代にも今後は目を向けて次へと続く取り組みとしてほしい。
健康づくり支援	災害時支え合いマップ作成地区	健康福祉課	17	17	19	21	30	平成22年度から毎年マップ作り講習会を開催してきており、昨年度策定済みとなった地区は21地区となった。マップは、災害時だけでなく、日常の地域での支え合い活動に活用し視点を換え、講習会を開催して行く。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・いずれも全体的に伸び悩み状態だと感じる。何らかの形で村民へのアピールを続ける必要性が高いと思う。 ・検診の必要性を村民に周知させる徹底を図る。 ・食育活動の周知も大切かと考える。	
	特定健診受診率	健康福祉課	47.1%	53.5%	55.4%	55.3% (速報値)	60.0%	29年度の確定数は55.4%。年々増加していますが、目標60%を目指します。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6		
	特定保健指導率	健康福祉課	73.3%	66.7%	67.7% (速報値)	未確定	75.0%	29年度の速報値は67.7%です。H30は未確定です。目標達成を目指します。				
食育ボランティア登録者数	健康福祉課	20	27	29	28	30	高齢化を理由に退会する方ができました。新規登録者の増加を目指します。					
小集落への集落支援員の配置	集落支援員数	総務課	0	0	2	3	2	小規模集落支援が中心ですが、非常に助かっている旨の意見をいただきました。H30は事務、公共交通関係の支援員を増員しました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	4.2	・支援員の成果が出ているようなので、目標数にとらわれず増員していければ良いと思う。 ・支援員の更なる活動に期待する。	

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
	安心な生活を守る買い物支援	支援車両の運行台数→ 買い物を目的としたデマンド型乗合タクシー の乗客数	健康福祉課	857	954	908	869	1,000	令和元年5月7日～10月31日まで、土 日、祝日と17時便を1便増やし実証運 行をしています。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・より利用しやすくなるよう工夫を重ねて ほしい。 ・支援車両の活用に期待する。 ・増便の実証進行に関しては評価した いと思う。村外へ出かけJR利用の方の 帰りの便には時間が合わず残念に思 う。今後はほかの公共交通との乗り継 ぎの利便性なども検討してもらいます ます利用しやすいデマンドになること を希望する。
	汎用防災アプリケーションシステム構築による防災 対策	アプリダウンロード数 (累計)	総務課	0	0	アンケート調査・ 方針決 定	構築	3,000	次期防災情報配信システムが必要と する機能を精査し、システム仕様を確 定しました。アプリの初期ライセンス数 は6000で提案募集を求めています。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.4	・順調に計画通り進んでいるようだが、 目標数をクリアするために村民に対す るさらなるアピールも必要と考える。 ・早急な対応を求む。
	図書館建設による情報発信と広域連携	図書館来場者数	生涯学習スポーツ課	12,800	12,920	13,811	15,274	25,000 → 16,000	新図書館建設関連の広報などが村民 の関心を引いたことが来場者数増加の 主な要因となっています。 今年度は新図書館での事業検証のた め、図書館内でのイベント開催を検討 し、さらなる利用者増加を図ります。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.6	・新図書館に向けて、村民の意識が高 まるような企画を進めてほしい。 ・新図書館に期待する。
	ごみ処理の広域化とごみの減量化	焼却ごみの削減 (t)	住民課	3,135	3,106	2,898	2,856	2,900	昨年8月から広域ごみ焼却場(北アル プスエコパーク)が本稼働し白馬村か ら排出される焼却ごみも処理されてい ます。 白馬村・小谷村・大町市から排出され る焼却ごみの排出量の比率がごみ処 理負担金の比率となります。 「分ければ資源、混ぜればごみ」の観 点でごみの分別を推進するため、ご みの出し方早見表の全戸配布、行政 区別のごみ分別の講習会開催を継続 していきます。 また排出抑制の観点から、プラスチッ クごみの削減のため長野県が推進す る信州プラスチックスマート運動の3C (チョイス(意識して選択)、チェンジ (すこしずつ転換)、コレクト(分別して 回収))について、この3Cを意識した 消費行動を消費者に、販売行動を事 業者に周知していきたいと考えます。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.8	・ゴミ減量化への取組は着実に成果が 得られているが、さらなる村民の意識向 上への努力を期待する。 ・ごみ処理の方法を等について検討が 必要である。

基本目標	基本施策	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	H26 2014 基準	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019 目標	R1内部評価コメント	外部評価基準	R1 外部評価	R1外部評価コメント
		リサイクル率	住民課	21%	22%	-	(今後国が 実施する 統計調査 で確定)	30.0%	リサイクル率向上のため、今後も4R (リフューズ(不要な物を買わない)、リ デュース(ごみを出さない)、リサイク ル(資源として再利用)、リユース(繰 り返し使用する))を意識した消費行 動を消費者に、販売行動を事業者に 周知していきたいと考えます。			
新たな広域連携による地域力の向上と経済・生活 圏の形成	新たな広域連携で取り組む事業分野		総務課	0	4	7	9	8→10	大北市町村で連携して実施する市町 村の広域連携推進事業として取り組 んでいます。H30は未就学児対象眼 科屈折検査事業と図書館相互利用促 進事業を新たに行いました。	5 期待した成果 4 概ね期待した成果 3 半分程度の成果 2 現時点では成果がみられない 1 ほとんど進んでいない	3.9	・広域連携は着実に成果を見せてい る。目標を超えた成果を出して、利用 者にとっても、村にとっても良い方向に 進むことを願う。

令和元年度白馬村第5次総合計画・総合戦略評価外部評価に対する各課コメント

○資料2 白馬村第5次総合計画評価シートより

課名	中分類	小分類	外部評価	各課コメント
総務課	住民参画と協働	行政区の主体的な取り組みの支援	3.6	1P 集落支援に関するコメント 支援員について効果が高い、増員が必要、増員が成果ではないとの意見がありました。活動内容について精査し、次年度に向け取り組んでいきます。
	防災・減災の強化	防災・災害情報の伝達	3.2	2P 防災訓練等に関するコメント 令和3年度から新防災情報配信システムが整備されることから、これらの情報配信(防災アプリ等)を活用した防災訓練等など、より多くの住民が参加してもらえるような防災訓練の実施に取り組んでいきます。
	行財政改革の推進	財政健全化	3.4	6P 財政健全化に関するコメント 財政健全化はかなり厳しいと感じるという意見がありました。将来負担比率が目標値を超えています。実質公債費比率も将来負担比率も健全財政の範囲内の数値となっています。ただ、今後も災害復旧債などによる償還額の増加が見込まれるため、引き続き健全財政を堅持するよう努めていきたいと考えています。
税務課	行財政改革の推進	財政健全化(課税と徴収)	3.4	6P 課税徴収に関するコメント 法に従い引き続き肅々と適正課税、適正徴収を行います。
住民課	ごみ処理広域化への対応とごみ減量化	ごみの削減と分別の徹底	3.8	12P ゴミに関するコメント 外国籍の住民も含め、ごみの分別の徹底と排出量の削減を今後も進めていきます。また、小売業者との連携による信州プラスチックスマート運動、飲食店との連携による30・10運動を進めていきます。
健康福祉課	高齢者福祉	地域包括ケアシステムの構築	4.1	5P 乗合タクシー、移動手段に対するコメント 10月に終了する実証運行の結果を分析し、より利用しやすい運行について検討します。また、デマンドを利用したことの無い方についてデマンドチャレンジ(体験乗車)を実施します。
建設課	日常の住みよさの確保	まちづくりマスタープランによる土地利用計画	3.4	3P 土地利用計画に関するコメント 現在策定作業を行っている立地適正化計画の中で、適切な土地利用計画を検討していきます。
農政課	優良農地の保全	里山環境の保全	3.7	7P 耕作放棄地、認定農家に関するコメント 現在北城南部地区のほ場整備事業を実施中であり、令和2年～5年にかけて順次工事を実施します。このエリアにある耕作放棄地約7,000㎡が解消予定です。また、真畔地籍も業者による砂利採取後、農地の整備予定です。新田地区についてもほ場整備事業に向けて現在取り組み中であり、耕作放棄地は解消されていく予定です。付随して認定農業者への支援は考えます。
	森林の整備と活用	森林整備地域活動支援	3.1	8P 森林整備に関するコメント 飯田地区の東山で県の森林税を活用した里山整備事業が動き出しており、具体的な箇所を計画中であり令和2年度より森林整備実施予定です。また、有害鳥獣の出没が多いことから、引き続き緩衝体整備実施します。
観光課	競争力と持続可能性を高める観光地経営	核となるスキー場と宿泊拠点の再生	3.3	7P 観光全般に関するコメント 白馬村観光地経営計画(平成28年3月)に示した目標像(恵まれた自然、山と雪が育む生活・文化を未来に残す マウンテンリゾート・Hakuba)を目指し、各種施策・事業に取り組んでいます。 観光地経営会議では、この計画の進行管理を行っていますが、本年度は計画中期にあたることから、前期の取り組みを評価し、進捗状況や社会環境の変化に応じて計画の一部見直しを行い、計画後期を迎えます。
上下水道課	きれいで安心・安全な水環境	水質保全	3.9	13P 上下水道に関するコメント 上下水道施設をこれからも適切に維持・更新するために、より一層の経営の効率化・健全化に努め、経営の「見える化」を図るとともに経営基盤の強化を目指します。
教育課	次代を担う子どもたちの学習支援	「自ら学び、自ら考える力」と「生きる力」の育成	4	9P 情報端末に関するコメント 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を推進するために、電子教材やICTを活用した授業を工夫し、確かな学力の育成を図ります。また、教職員のICT活用力向上を図るため、ICT支援員との連携強化を図ります。
子育て支援課	子育て支援	子育てに関する交流や相談の場づくり	4.1	3P 子育てに関するコメント 子どもや家庭がニーズに合ったサービスを利用できるように、子ども・子育て支援の充実を図るとともに、妊娠・出産・子育てを通じて、切れ目なく支援する体制の整備強化に努めます。 また、子ども・家庭・地域がそれぞれに力を発揮して繋がることで、全ての子どもの育ちが支えられ、夢と希望にあふれる子どもが活躍できる村づくりを行政、各関係団体、地域とともに実現して参ります。
生涯学習スポーツ課	限りない向上心を支える生涯学習	限りない向上心を支える生涯学習	3.8	9、10P 図書館、文化イベントに関するコメント 新図書館に向け、現在ある図書館で、テストイVENT的に多様な取り組みを徐々にはじめて参ります。文化イベントは、村単独ではなく、多種多様な多くのイベントが実施されるよう関係団体等とも調整していきます。
	生涯にわたるスポーツに親しむ村づくり	スポーツによる健康づくりと活力の創造	3.9	10P スポーツ人口に関するコメント 新たな図書館建設に向けては、本年度策定される基本計画に沿い、来年度以降機能ごとの運営詳細を検討する予定です。スポーツの実施に関する「週一日以上スポーツをする人の割合」等調査を実施します。体育協会やスキークラブ又は、公民館の活動等スポーツに限らない生涯学習の場も広く進めて参ります。

○資料3 白馬村総合戦略評価シートより

課名	基本目標	基本施策	外部評価	各課コメント
健康福祉課	地域の資源と人を活かした「しごと」を創出する	看護師と介護職員等の安定雇田	2.8	2P 人材確保に関するコメント(KPI主旨説明) 数値目標の把握が難しいのでKPI指標の見直しを行います。

白馬村総合計画等評価委員

	所属	氏名	備考
1	白馬村民生児童委員	志水あゆ美	
2	白馬商工会長	杉山 茂実	
3	白馬村体育協会会長	山岸 忠	会長
4	区長会会長	山本 巖	
5	まちづくり白馬友の会	松沢 幸一	
6	白馬村シニアクラブ会長	下川 辰男	
7	大北農協白馬支所長	竹田 俊幸	
8	白馬村索道事業者協議会会長	太田 達彦	
9	白馬村ボランティア連絡協議会会長	伊藤 静江	
10	観光地経営計画委員	ケビン モラード	
11	公募委員(元山麓区長)	藤田 直子	
12	公募委員(図書館施設検討委員会委員長)	富山 正明	副会長
	事務局	氏名	備考
1	総務課長	吉田 久夫	
2	総務課 企画調整係長	田中 洋介	
3	総務課 政策企画係長	矢口 浩樹	